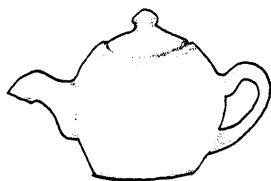


聴いてもらおう体験

松井 とし



十月の中旬に開かれた新規採用教員の研修会の場で、教師になって半年の若き保育者九人がそれぞれ自分がかかえている悩みや、保育への思いを語った。聞き手は「聞くこと」の専門家、カウンセラーのN先生。

先生は穏やかに「さなのですね」と語りかけながら、まさに十四の心（聴は耳へんに十、四心）をもって耳を傾け、一人ひとりの話をじっくりを聞いて下さり、次第にグループ全体に和やかな雰囲気満ちていった。

後日、参加者からは次のような感想が寄せられた。

『カウンセラーの先生に話を聞いていただいていると、なにかとても不思議な力で自分の頭の中の混乱していたものが、どんどん引き出されていくようで怖ささえ感じました』

『他の人の話を聞いて、同じようなことで悩んでいるのだな、と感じホッとしました』

『N先生の話の聞き方、話し方から人に対する接し方、言動について自分を見つめ直す機会になりました。普段の生活の端々で子ども達を傷つけてしまう言動をしているかも知れないと思い、自分を客観視する目を持つとうと思いました』

『強く感じたことは、聞き手のN先生が一人一人の話を決して否定されないということでした。一緒に考えていきましょう、という親身な姿勢が聞いている者にも伝わってきました』

『子ども達一人ひとりのありのままの姿を受け入れて接することができるように努力していきたいと思えます』

『自分の悩みを人に伝えることで自分の中でも整理できました。先生が批判や判断をしなからず、すべてを受けとめて下さったので安心して話すことができ、自然と解決の糸口がつかめたように思えます』

N先生と話し手のやりとりを共感的に聞くことによって、自身の課題解決の糸口を見いだしていること、また自分の悩みや課題を聴いてもらうことによって癒される体験をきちんと位置づけ、保育者としての自分のあり方にまで考え及んでいること等、参加者一人ひとりの貴重な気づきに心を動かされた。

(元・幼稚園教諭)